

### 第53回 下剤

下剤は胃薬や解熱鎮痛薬などに並んでくすりの中でなじみ深いもののひとつと言えるでしょう。ただ、ひとえに下剤と言っても、種類は大きく分けて3種類存在します。その3種類は機械的下剤、刺激性下剤、自律神経下剤です。機械的下剤とは、腸の中の水分を増やすことによって、出しやすくする下剤で、「便を柔らかくするくすり」と説明されることが多いです。病院でよくでる、酸化マグネシウムやマグラックスはこの下剤に分類されます。刺激性下剤は、腸の粘膜を刺激して、腸を動かすことによって排便を促すくすりです。一般のドラッグストアで購入する薬はこのタイプがほとんどであり、漢方で下剤の効果をうたっているものもこの刺激性下剤に分類されます。最後の自律神経下剤は、一般的には用いられないものですが、腸の動きは自律神経によって制御されており、自律神経に働きかけるくすりを使って腸を動かすことによって排便を促すものです。副作用などの問題もあるため、自律神経の働きを下剤に応用することは少なく、腸の動きが刺激性下剤などでも動かない場合などに使用されます。

下剤は女性に使用されることが多いです。年とともに腸の機能は弱くなるため、高齢者では男女問わず便秘に悩まされやすいですが、若いうちでは男性は下痢になりやすいのに対して女性は便秘になりやすくなります。女性の便秘の原因の一つとしてホルモンがあげられます。女性のホルモンには腸の動きを鈍くする作用があるために便秘になりやすくなります。また、男性に比べて、筋肉量が少ないのも原因の一つです。腹筋や括約筋など排便に必要な筋肉が少なく、さらに筋肉が少ないことや骨盤の関係で胃が下に下がってきてしまいやすく（胃下垂）、これも腸を圧迫して便秘の原因と言われていきます。運動不足も筋肉量の減少と、運動による腸への刺激不足になってしまい、これも便秘の原因です。最後に社会的な要因が挙げられ、女性は便意を我慢してしまう傾向が強く、我慢を繰り返すことにより、排便リズムを乱してしまい便がたまっていても、便意を感じないような便秘になりやすいです。女性には便秘になりやすい理由がこれだけあります。市販の便秘薬のCMが女性をターゲットにしているのがよくわかりますね。

それでは当院にある下剤についてみていきましょう。

プルゼニド、酸化マグネシウム、テレミンソフト、ラキソベロン：不明  
下剤は古くからあるくすりも多く、名前の由来が不明なものが多いです。

新レシカルボン：主剤の炭酸水素ナトリウム（Sodium hydrogen carbonate）、乳化剤のレシチン（lecithin）より命名

マグラックス：酸化マグネシウムの「Mag」及び下剤「Laxative」の「lax」を合わせたアローゼン：センナをすべて使っているというオールセンナから

新レシカルボン坐剤は直腸で炭酸ガスを発生し腸を刺激することにより排便を促します。アローゼンに含まれるセンナは生薬そのもので有効成分はプルゼニドに含まれるセンノシドです。プルゼニドはセンナの有効成分であるセンノシドを抽出してくすりにしたのですが、生薬そのままのアローゼンはセンノシド以外にも成分が入っているため、プルゼニドで効かない人にも効く可能性があるようです。

今回は新しく出たくすりです。